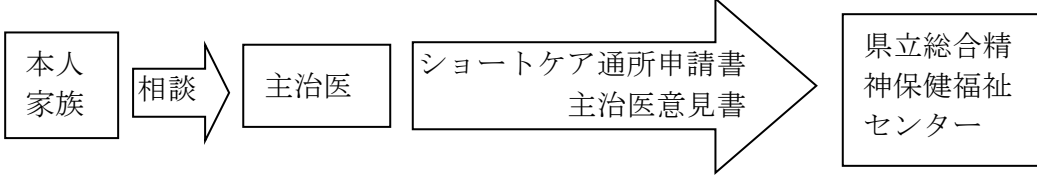
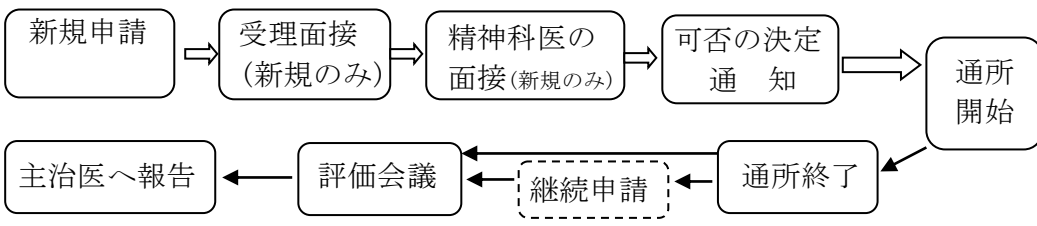


## (Ⅲ) デイケア及び家族支援事業

## 1 薬物・アルコール依存症ショートケア

## (1) 薬物・アルコール依存症ショートケア概要

平成 28 年 10 月より、認知行動療法(SMARPP)<sup>※</sup>と作業療法を用いた、「薬物・アルコール依存症ショートケア」を開始した。令和2年 3 月迄に7クール実施した。

目的	薬物あるいはアルコール依存症と診断された方の健康回復と社会参加促進及び生活の質の向上を図る。
対象者	薬物依存症、アルコール依存症と診断された、おおむね 18 歳以上の者
定員	20 人
日時	毎週木曜日 9 時 30 分～12 時 30 分(3 時間) ※健康チェック・医師面接 9 時～
実施期間	前期:4 月～9 月(21 回) 後期:10 月～3 月(20 回) 随時受入可(途中からの参加も認める)
費用	医療保険、自立支援医療費(精神通院)を適用 ※交通費は自己負担
内容	① 認知行動療法=CBT (物質使用障害治療プログラム=SMARPP) ② 作業療法:陶芸、革細工、ヨガ 等 ③ 必要に応じて個別相談
申込み方法	※通所申請書に精神科主治医意見書を添えて申し込む 
申請から終了までの流れ	
評価報告書	クール終了後に医師、心理士、作業療法士を中心に「評価報告書」を作成し、各主治医へ送付する。
スタッフ	精神科医 作業療法士 看護師 保健師 心理士 ※上記より精神科医と作業療法士を中心に4人が参加 ※CBT へ沖縄ダルクや琉球 GAIA より当事者スタッフを招聘 ※作業療法(ヨガ・陶芸・革細工)には、各専門講師を招聘
記録類	① 日誌 ② 個人記録 ③ 出席簿 ④ 評価報告書

## (2) 薬物・アルコール依存症ショートケア利用者状況

## ① 性別・年齢別利用者数(人)

年齢区分	10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69		合計	
性別 期	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
前期	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	0	7	0
	1		0		2		2		2		0		7	
後期	0	0	1	0	2	0	1	0	4	0	0	0	8	0
	0		1		2		1		4		0		8	

## ② 保健所圏域別利用者数(人)

保健所 期	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	合計
前期	0	0	4	3	0	0	7
後期	0	2	3	3	0	0	8

## ③ 参加状況

期	項目 性別	登録者数	新規 登録数	参加延数	1日平均 参加人数	出席率 (%)
前期	男	7	2	63	3.0	53.3%
	女	0	0	0	0.0	
	計	7	2	63	3.0	
後期	男	8	3	71	3.6	54.0%
	女	0	0	0	0.0	
	計	8	3	71	3.6	


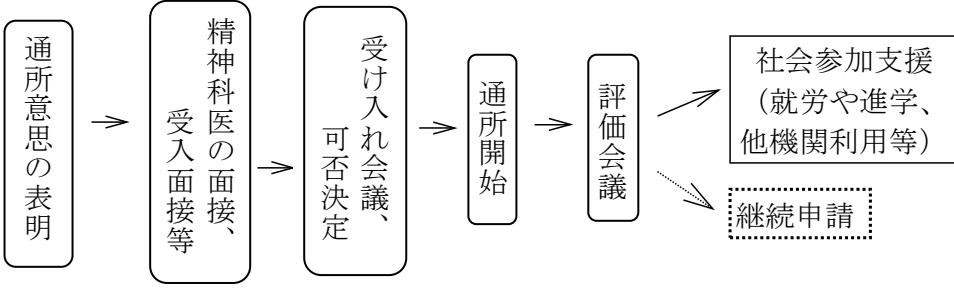
## ④ プログラム別実施状況(回)

項目	前期	後期
開始式・オリエンテーション・自己評価	1	1
認知行動療法(物質使用障害治療プログラム)	20	20
ヨーガ	6	6
陶芸	6	6
革細工	6	6
料理・懇親会	1	0
修了式・自己評価・アンケート・懇親会	1	1
計	41	40

## 2 ひきこもりデイケア

### (1) ひきこもりデイケア概要

当センターでは平成 29 年 2 月より、ひきこもりデイケアを開始した。個別の相談・支援を行うと共に、集団の効果を活かしたアプローチを行い、基本的なソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身につけ就学・就労など社会の中で自分らしく生きることを目的としてデイケアを実施している。

目 的	ひきこもり当事者に対して、個別活動や集団活動等を通して自己受容や自信の回復を促進し、社会参加及び生活の質の向上を図る。
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもり専門支援センターから紹介がある方</li> <li>中学校卒業以降の方</li> </ul>
定 員	・ 10 名
回数・時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週火曜日 ・9 時 30 分～15 時 30 分までの 6 時間</li> <li>当事者らの状況に応じ、ショートケア(3 時間)を選択することもありうる。</li> </ul>
通所期間	・ 原則、2 年まで通所利用できる。
費 用	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通費、昼食代は自己負担</li> <li>デイケア料等の医療費は、自立支援医療費(精神通院)が利用できる。</li> </ul>
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法(陶芸、手工芸等)やレクリエーション活動、スポーツ等</li> <li>SST(社会生活適応訓練)、認知行動療法等</li> </ul>
申 込 方 法	<p>・ 通所を希望する者は、ひきこもり専門支援センターを通して申込み。ひきこもり専門支援センターの職員は、相談支援の過程でデイケア通所が適当と思われる当事者については、デイケアを紹介し、受理会議及び所内カンファレンスで提案する。</p> 
申請から終了まで	
他機関への経過報告	継続支援に係る機関に対してデイケア評価報告書(任意様式)を送付する
スタッフ	① 精神科医師 ② 作業療法士 ③ 看護師 ④ 保健師 ⑤ 心理士
記録類	① 日誌 ② 個別記録 ③ 出席簿 ④ 臨床評価報告書 等

## (2) ひきこもりデイケア利用者の状況

## ① 性別・年齢別利用者数(人)

年齢区分	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	計	
期	性別		性別		性別		性別	
	男	女	男	女	男	女	男	女
通年 (4～3月)	2	0	2	1	0	0	6	2
	2		2		3		0	
							1	
							0	
							8	

## ② 保健所圏域別利用者数(人)

保健所	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	合計
通年	0	3	2	7	0	0	12

## ③ 参加状況 ※体験利用者を含む

項目	性別	通所者数	参加延数
	通年	男	9
	女	3	39
	計	12	218

## ④ プログラム別実施状況

項目	回数
クッキング	9
陶芸	6
所外活動(図書館、施設見学等)	7
革工芸	6
スポーツ(卓球・グランドゴルフ等)	9
園芸	6
制作活動(島ぞうりアート)	2
学習会	1
計	46

上記はメインの活動。パラレルな自主活動をベースとし、上記活動を実施。また、個別面談、卓上ゲーム、筋肉トレーニングなどを取り入れた。

### 3 家族支援

#### (1) ひきこもり家族教室

目的:家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターで支援している家族

場所:当センター 2階教育研修室

開催日	内容	参加家族
第1回 5月15日	① 講話「ひきこもりとは」 講師:心理士 ② ワーク「望ましい行動を増やす」	14 家族 19 人
第2回 7月17日	① 講話「ひきこもりの長期化と心の病気」 講師:所長 ② ワーク「ポジティブなコミュニケーションスキル」	26 家族 34 人
第3回 11月21日	講話 「ひきこもり経験者の体験談」	29 家族 40 人
第4回 1月16日	講話 「家族の体験談」	33 家族 41 人
延べ数		102 家族 134 人

#### (2) ひきこもり家族向け講演会

目的:家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、

当事者(当センターを利用している方を中心に募集)

場所:当センター 2階教育研修室

開催日	テーマ	参加家族
第1回 9月21日	「ひきこもりの子をもつ親」である私が豊かな人生を生きるために 講師:琉球大学 准教授 草野 智洋氏	45 人
第2回 2月15日	本人と共に生きていくために家族ができることとは? 講師:宮崎大学 准教授 境 泉洋氏	32 人
延べ数		77 人

#### (3) 薬物・アルコール依存症ショートケア家族教室

目的:薬物・アルコール依存症への理解を深めること、及びご家族の悩みや苦労を分かち合い、ご家族を支援することを目的とする。

日時:令和元年9月4日、令和2年2月26日 14時～16時

場所:当センター デイルーム

内容:①依存症ショートケアの実施内容と実施状況について

②アルコール依存症の理解と対応について

#### ③ 懇親会(分かち合い)

参加人数:2人(9月4日)、3人(2月26日)